



スタートする高校生製作のミニ電気自動車

高校生製作マシンが熱戦

横手・雄物川町 電気自動車の周回数競う

高校生が製作したミニ電気自動車の周回数を競うレースが18日、横手市雄物川町の雄物川河川公園で開かれた。県内5校から合わせて9台、計100人が参加。個性豊かなマシンが熱戦を繰り広げた。出場したのは秋田工、大館桂桜、大曲工、横手清陵、湯沢翔北の5校。空気抵抗を減らすため車体に傾斜をつけるなど、どのマシンも工夫を凝らしてレースに臨んだ。

コースは1周約1・4キロ。1時間でどれだけ周回できるかを競った。チームの仲間やスタッフから「頑張れ」と声援を送られ、ドライバーが懸命にマシンを操作した。

この日は風がほとんどなく、会場には強い日差しが照りつけた。スタートした午後0時半ごろには気温が33℃、34度となり、熱中症対策のため途中休憩を挟みながらのレースとなった。

秋田工の「秋工レーシング1」は順調にラップを刻み、バッテリーの残量計算もばっちり。チームワークの良さで見事に優勝を飾った。ドライバーの齊藤悠貴さん（3年）は「出だしはマシンに負荷をかけ過ぎてしまい、安全装置が作動するトラブルがあったが、中盤から巻き返すことができた」と喜んだ。

準優勝は横手清陵の「AY S」、3位は大曲工の「躍進」だった。

レースはものづくりや環境教育を目的に、県内の高校教師や製造業者らでつくるNPO法人ソーシャレック（横手市）を中心とした組織委員会が主催した。2年ぶりの開催となり、今年で10回目。

（伊藤寛明）